

なとりがわ ひろせがわ かわざかな たんけん
名取川・広瀬川の川魚探検マップ

名取川・広瀬川でおもに見られる魚

○一生を淡水（川や湖）でくらす魚【純淡水魚】

☆めずらしい魚

●アブラハヤ ●イワナ ●ウグイ ●カジカ

★スナヤツメ ★ギバチ ★ホトケドジョウ

●コイ・フナの仲間 ●ドジョウの仲間 ●ヨシノボリの仲間

? その他（地図に名前がのっているよ）

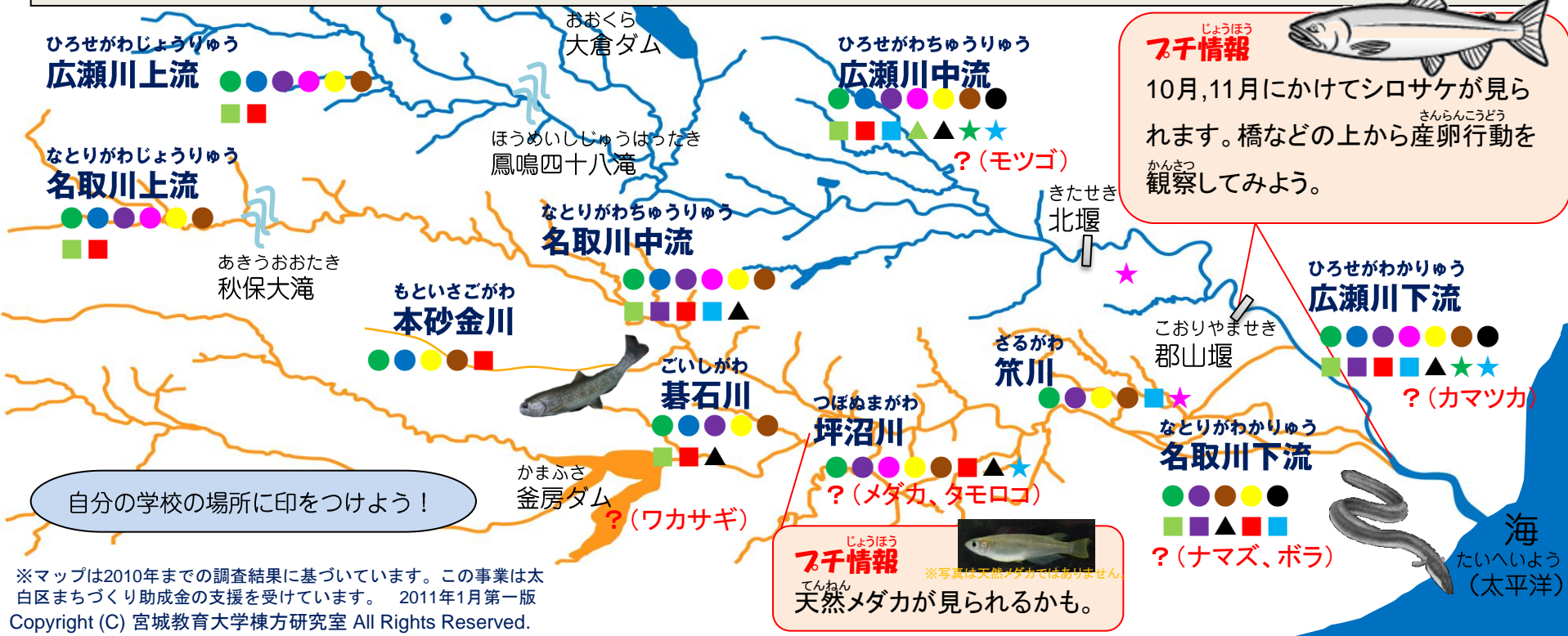
□海と川を行き来する魚【回遊魚】

■アユ ■ウナギ ■サクラマス(ヤマメ) ■シロサケ

△もともと仙台にいなかった魚【外来魚】

▲オイカワ(関西) ▲オオクチバス(アメリカ)

魚の写真はこちらでチェック！ →
 うら面に写真がのっているものもあります。



飛千情報
 10月,11月にかけてシロサケが見られます。橋などの上から産卵行動を観察してみよう。

飛千情報
 天然メダカが見られるかも。

自分の学校の場所に印をつけよう！

※マップは2010年までの調査結果に基づいています。この事業は太白区まちづくり助成金の支援を受けています。 2011年1月第一版
 Copyright (C) 宮城教育大学棟方研究室 All Rights Reserved.

観察できる魚について

●アブラハヤ



体の表面に油をぬったようにヌルヌルしているの、アブラハヤという名前がついた。

おもな観察場所(上流～下流・草むら)

つかまえ方

春～秋にかけて、比較的どこでもみられます。手あみをつかって河原の草むらなどを探してみよう。

●イワナ



上流の水がきれいなところにすむ。

おもな観察場所(上流・石のかけ)

つかまえ方

大きな石と石のすき間など、イワナがかくれられそうな場所を手あみで探してみよう。

●ウグイ

川全体でよく見られる魚。春～夏(5～7月頃)の産卵期になると、体の側面にオレンジ色の線(婚姻色)があらわれる。

おもな観察場所(上～下流・流れのある所)

つかまえ方

手あみでつかまえられることもあります。

●カジカ

水がきれいなところにすむ。川の水質の目安となる魚。

おもな観察場所(中流・流れのある石の下)

つかまえ方

少し流れのある場所で、石を持ち上げて手あみでさがしてみよう。

●コイ・フナの仲間

うろこが大きい。水がよごれているような場所でもらせる。

おもな観察場所(下流・草むら)

つかまえ方

春～秋にかけて、比較的どこでもみられます。

■アユ

川の中の石についた藻を食べる。アユが藻を食べた石には「ハミ跡」とよばれる跡が見られる。石を持ち上げて観察してみよう。

おもな観察場所(中～下流・流れのある場所)

つかまえ方

成魚(せいぎょ)をつかまえるのはむずかしい。6、7月はアユ釣りの様子が観察できます。

■サクラマス (ヤマメ)

川で生まれて海へ出て成長する(回遊魚)。海に下らず川に残るものをヤマメという。ヤマメにはパーマークと呼ばれる模様があるが、サクラマスはパーマークが目立たなくなり。銀色に変化する(銀化)。

おもな観察場所(中～下流・流れのある所)

つかまえ方

成魚をつかまえるのはむずかしい。上流では手あみでつかまえられることもあります。



サクラマス



ヤマメ

川に行くための準備

- ・長そで：草や虫にかぶれないため。
- ・長ぐつ(ウェーダー)：長いものがよい。
- ・手あみ：ホームセンターで200円位～。
- ・バケツ
- ・ライフジャケット：危険な所(深い所など)に入るときは必ず着けましょう。
- ・白い容器(バット)・虫めがね：小さな生き物の観察がしやすくなります。



■シロサケ

川で生まれて海へ出て成長する(回遊魚)。サクラマスとちがいで、全てが海へ下って成長する。秋に産卵のために川にもどってくる。

おもな観察場所(中～下流・流れのある場所)

観察だけにしましょう(つかまえてはいけません)。10、11月頃に郡山堰の近くや名取川で産卵の様子が見られます。



▲オイカワ

産卵期の6～7月ころのオスには青やオレンジの鮮やかな婚姻色があらわれる。

おもな観察場所(中～下流・流れのある場所,草むら)

つかまえ方

手あみで流れのある所や草むらをかき出してみよう。

★スナヤツメ

すなぞこ

砂底にもぐってくらす。

ミズのような体つきをしている。

おもな観察場所(中流・川底の砂の中)

つかまえ方

手あみで、川底の砂をかき出すようにさがしてみよう。

